

平成21年度認定拠点一覧

【単独型】

大学・研究施設名	共同利用・共同研究拠点名	代表者	研究分野	有効期限	共同利用・共同研究拠点の概要
北海道大学 低温科学研究所	低温科学研究拠点	香内 晃	低温科学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 寒冷圏及び低温条件下における科学現象の基礎と応用に関する研究を遂行することを目的とする。 ○ 低温実験室や附属の観測所等の設備の共同利用や、本研究所が提案する重点的な研究課題に沿った分担型共同研究である特別共同研究、本研究所が設定する研究プロジェクトに関連した研究課題を公募して実施される一般共同研究、研究企画のための会議・シンポジウムなど、多様な全国公募型共同研究プログラムを提供してきており、今後もこれらを継続的に発展させ、寒冷圏で生ずる様々な自然現象の解明を通じて、社会の要請に応えていくものである。 ○ 広い意味での雪氷学とそれを取り巻く自然環境の長期・広域観測及びその基礎となる現象の理論・実験的解明に関する共同研究の拠点として機能させ、新しい学問領域の創成に務める。
北海道大学 触媒化学研究センター	触媒化学研究拠点	上田 渉	触媒化学、 サステナブル触媒工学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 持続可能社会の達成に必要な革新技術を生み出す先導的触媒化学研究を多様な共同利用・共同研究を通して推進する。 ○ 社会や研究者コミュニティから強く要請のある新しいエネルギー・資源・物質体系の構築を目的としたサステナブル触媒の共同研究を推し進め、そのための触媒高度化支援、触媒高密度解析支援を進める。また、触媒化学分野を越えたより広い研究者コミュニティと共同して触媒をコアとする学術領域を創成する。このため、研究者コミュニティの代表により組織される運営委員会において課題設定し、関連提案を受け、公募による共同利用・共同研究を実施する。また、情報発信、国際的提言、実践的高度教育を進め、研究者が新しい研究の芽を発送できる情報・交流・育成プラットフォームを研究者コミュニティに供する。 ○ 社会が望む新触媒システムの実現に向けた全国の多くの研究者の強い思いを共同研究の様々な柱として集約し、これらを具体的な共同研究の方向へと定め、実施する役割を担う。
北海道大学 スラブ研究センター	スラブ・ユーラシア地域研究にかかわる拠点	岩下 明裕	地域研究	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ スラブ・ユーラシア地域を中心とした総合的研究。 ○ 共同利用・共同研究拠点としての事業は、公募、競争的資金、他研究機関との協力などをベースにスラブ・ユーラシアに関わる様々な共同プロジェクトを企画・実施する。 ○ 内外のスラブ・ユーラシアにかかわる研究活動のハブとなる。国内的には全国の関連研究者を結ぶ共同研究のさらなる支援・発展及び次世代研究者の育成に力を注ぎ、対外的にはスラブ・ユーラシア地域における先端的な各種調査を現地カウンターパートとの協力で幅広く実施する。重要な任務の一つは、日本のスラブ・ユーラシア研究の対外発信力を強化し、国際関連学会とより緊密な共同研究を遂行することである。特に韓国・中国の関連学界を糾合し、スラブ・ユーラシア研究東アジア学会を組織し、世界規模での学界統合を推進する一翼を担う。
北海道大学 遺伝子病制御研究所	細菌やウイルスの持続性感染により発生する感染癌の先端的 研究拠点	上出 利光	基礎医学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 細菌やウイルスの持続的な感染により引き起こされる癌（感染癌）を制圧するために、関連学術コミュニティの研究者との共同利用・共同研究を推進する拠点を形成し、もって癌の撲滅をみざす研究の一端を担うことを目的とする。 ○ 病原体と宿主細胞との相互作用が発癌へと至る機構を解明し、その診断法、予防法、及び治療法を開発するために、当研究所が保有するリソースの共同利用及び共同研究を、広く関連学術コミュニティに呼びかけて推進する。 ○ 共同利用・共同研究を核として、研究者の専門領域を超えた学際的かつ融合的なプロジェクト研究を推進し、次代の感染癌研究を担う若手研究者を育成することにより、我国における国際的な感染癌研究拠点の形成を目指す。

大学・研究施設名	共同利用・共同研究拠点名	代表者	研究分野	有効期限	共同利用・共同研究拠点の概要
北海道大学 人獣共通感染症リサーチセンター	人獣共通感染症研究拠点	喜田 宏	人獣共通感染症学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会のニーズ及び関連研究者コミュニティの要望を踏まえ、(i) 感染症病原体の自然宿主と伝播経路解明の基礎研究、(ii) 予防・診断・治療法の開発と実用化研究、(iii) 人獣共通感染症専門家の育成、(iv) 共同利用・共同研究拠点として国内外機関との連携協力といった使命を果たすことを目的とする。 ○ BSL-3 施設、透過型及び走査型電子顕微鏡、フローサイトメーター、遺伝子解析装置等の施設、設備を学内のみならず、学外の関連研究者の利用に供し、優れた研究環境で人獣共通感染症の克服に向けた共同利用・共同研究を推進するとともに、新たな学術領域を創成する。 ○ 本センターを広く国内外の研究者及び組織の利用に供することによって、喫緊の国際課題である人獣共通感染症の克服に向けた共同研究・教育を飛躍的に進展させる中核拠点としての役割を目指す。
帯広畜産大学 原虫病研究センター	原虫病制圧に向けた国際的共同研究拠点	五十嵐郁男	寄生虫学、応用獣医学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本拠点は、世界最大の感染症であるマラリアをはじめとする原虫病の制圧により人類の健康福祉に寄与するとともに、地球規模の課題である食料安全保障に学術貢献することを目的とする。 ○ 上記目的達成のため、1) 原虫病の診断、治療、予防に関する先端研究の推進、2) 原虫病の制圧及び監視体制構築による国際貢献、3) 原虫病に関する研究者及び専門家の育成を推進する。 ○ 本センターは、アジア初の国際獣疫事務局 (OIE) コラボレーティングセンターとして認定されており、最新の疾病流行情報と世界各地から収集された研究試料、充実した施設設備等を提供することにより、原虫病の先端共同研究を牽引し、アジアにおける原虫病の中核的研究拠点としての役割を担うことを目指す。
東北大学 金属材料研究所	材料科学共同利用・共同研究拠点	中嶋 一雄	材料科学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本研究所の優れた人的・物的資源を組織の枠を超えて研究者コミュニティに開放し、共同利用・共同研究を遂行することによって、材料科学分野における世界的な中核的研究拠点として機能することを目的とする。 ○ 全国の材料科学研究者と所内研究部門との「研究部共同利用研究」及び我が国では他に類を見ない特徴、特殊設備を有する「量子エネルギー材料科学国際研究センター」、「強磁場超伝導材料研究センター」、「金属ガラス総合研究センター」、「計算材料学センター」、「中性子散乱プラットフォーム」、「国際共同研究センター」での共同利用・共同研究を実施する。 ○ 所内研究者と世界最先端の多くの優れた研究設備や知的財産を活用し、我が国の材料科学の発展に貢献する。
東北大学 電気通信研究所	情報通信共同研究拠点	矢野 雅文	情報通信	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人と人との円滑なコミュニケーションのみならず、人間と機械の調和あるインタフェースまでを包括した「人間性豊かなコミュニケーション」の実現を目指した学理並びにその応用の研究を推進することを目的とする。 ○ 大規模設備・施設等の共同利用を主体とする従来の共同利用型ではなく、本研究所がかねてからの推進実績を持つ、本研究所において実施する共同プロジェクト研究を主軸とした共同研究型の研究拠点を形成する。 ○ 最先端の研究基盤を活用し、研究所外の研究者コミュニティとの密接な連携による、「人間性豊かなコミュニケーション」実現へ向けた先導的な研究を推進すると共に、大学附置研究所としての特徴を生かし多様かつ高度な人材育成や先端技術の技術移転・実用化などを実施する。
東北大学 流体科学研究所	流体科学研究拠点	早瀬 敏幸	流体科学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物質のみならずエネルギーや情報の流れなど、人間が生活する上で避けて通れない「時間軸」と「空間軸」上で展開されるあらゆる流動現象に関する流体科学の学理の構築と応用研究を通じた社会的な重要問題の解決を目的とする。 ○ エアロスペース、エネルギー、ライフサイエンス、ナノ・マイクロ等の応用分野と流体科学基盤研究を基軸とし、国内外の様々な異分野の英知を結集して共同研究と分野横断的研究交流を推進する。 ○ 環境、エネルギー、ライフサイエンスなどの重点分野を幅広く支える横断的基盤学術分野である流体科学の研究拠点として、最先端融合領域における研究成果の創出、新たな流体科学学術分野の体系化、幅広い視野と深い専門性を有する研究者・技術者の育成を目指す。

大学・研究施設名	共同利用・共同研究拠点名	代表者	研究分野	有効期限	共同利用・共同研究拠点の概要
東北大学 加齢医学研究所	加齢医学研究拠点	福田 寛	加齢医学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 超高齢社会の最重要課題である「認知症等の脳・神経疾患」や「難治性がん」を克服し、身心の健康寿命を全うするスマート・エイジングの達成を拠点の最終目的とする。 ○ ①加齢現象の分子メカニズムやそれを修飾する生体防御機構の解明、②加齢に伴う認知症などの脳・神経疾患、③難治性がんの先端的診断・治療法の開発、を加齢医学研究の三本柱とする。本研究所のこれまでの高度な研究実績を活用し、研究機器・資源・技術のさらなる充実を図りながら加齢医学の全国共同利用・共同研究拠点として活動を展開する。 ○ 研究者コミュニティの要請に応えるとともに、国内外の中核的・先導的役割を果たす。
筑波大学 計算科学研究センター	先端学際計算科学共同研究拠点	佐藤 三久	計算科学、 計算機科学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 超高速計算を軸とする計算科学の研究と最先端の計算機科学を密に連携・協働させることにより、計算基盤の能力及び機能の飛躍的な高度化を図り、科学の諸分野の研究を行う学際計算科学を推進することを目的とする。 ○ 計算科学と計算機科学の学際的な共同研究及びその基盤となる大規模計算基盤の共同利用による共同研究により、最先端の学際計算科学を開拓・推進する。 ○ 今後、国の次世代スパコンが完成し、計算科学による学術研究の一層の推進が求められる中、学際計算科学に関する共同利用・共同研究、人材育成、国際連携を積極的に推進することにより、計算科学の飛躍的な発展に大きな役割を果たすことを目指す。
筑波大学 遺伝子実験センター	形質転換植物デザイン研究拠点	江面 浩	植物遺伝子 研究	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 植物遺伝子に関する基礎科学の成果利用を促進する「形質転換植物に関する総合研究拠点」として、形質転換植物に関する学術研究を一層推進することを目的とする。 ○ 形質転換先端技術を活用し、植物重要形質発現に関わる遺伝子群の機能理解に関する共同研究及び実用化候補作物の作出につながる共同研究を行う。 ○ 最先端の植物遺伝子形質転換技術及び形質転換植物開発に関するリスク評価・管理技術・知財管理・データベース等のノウハウについて、研究者コミュニティとの共用化を図るための拠点として機能する。
群馬大学 生体調節研究所	内分泌・代謝学共同研究拠点	小島 至	内分泌・代 謝学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ メタボリック症候群など社会的に要請の高い内分泌・代謝疾患の共同研究課題を遂行し、創出基盤技術等を共同利用に供することを目的とする。 ○ 共同研究として次の2つに分類される研究課題を推進する。病因解析では、生活習慣病の感受性遺伝子群の探索などに加え、「環境負荷による生活習慣病の発症とエピゲノム解析」研究を行い、機能解析では研究所の所有するイメージング技術、種々の代謝機能活性測定や内分泌・代謝系などに異常のある動物を用いて、生活習慣病に関連したトランスレショナルリサーチを行う。 ○ 内分泌・代謝学における国際水準の共同研究創出拠点として機能するとともに、研究者コミュニティの学術活動に貢献する。
千葉大学 真菌医学研究センター	真菌感染症研究拠点	野本 明男	真菌学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 真菌・放線菌によるヒト真菌症の克服を図り、安全・安心社会の構築に寄与するとともに、これらの微生物資源・遺伝子資源の活用を軸とする共同利用研究及び研究会の実施を通して、我が国の真菌及び放線菌に起因する疾患の研究発展に資することを目的とする。 ○ 真菌・放線菌の菌学・遺伝学・形態学・分子生物学・細胞生物学的解析及び真菌に特有のヒト生体防御システムの研究を平行して進め、総合的な真菌症対策を推進する。 ○ 本センターの持つ人材と資源を活用し、真菌症の診断法の開発はもとより、病態を含めた真菌の感染機構の解明や新規治療薬の開発などの研究成果を広く世界に発信し、また、真菌症におけるリファレンスセンターとしての機能を充実して、アジアをはじめ世界中核的真菌症研究拠点の構築を目指す。

大学・研究施設名	共同利用・共同研究拠点名	代表者	研究分野	有効期限	共同利用・共同研究拠点の概要
千葉大学 環境リモートセンシング研究センター	環境リモートセンシング研究拠点	西尾 文彦	環境動態解析	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ リモートセンシング研究の推進と衛星データを用いた環境研究の推進を目的とする。 ○ センサ開発、衛星データからの情報抽出、環境変動評価の3重点分野に関する共同研究を推進するとともに、衛星データ、地理データを広く研究者に公開することによりリモートセンシング研究、環境研究を発展させる。また、リモートセンシングの分野で国内外の研究者、高度技術者を育成する。 ○ これらの目的を推進していくことで、地球温暖化、水問題、食糧問題環境汚染問題等に対する科学的な波及効果をもたらす、社会貢献に資するとともに、リモートセンシング研究と衛星データによる環境研究の更なる発展を図る。
東京大学 地震研究所	地震・火山科学の共同利用・共同研究拠点	平田 直	固体地球科学、自然災害科学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地震・火山に関連する固体地球科学、地震及び火山噴火に起因する災害の防止・軽減に関する理工学、及び国内外における、地震・火山噴火予知研究の推進する。 ○ このために、課題公募型と参加者公募型の共同研究とを行い、地震研究所の保有する施設・設備・資料データ等を全国の関連研究者に提供する。 ○ 全国連携で行う地震火山噴火予知のための観測研究の企画立案・調整・実施を行う。国内外からの客員教員を受け入れ共同研究を行う。
東京大学 宇宙線研究所	宇宙線研究拠点	梶田 隆章	宇宙線	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 素粒子や宇宙物理のフロンティアを、伝統的な光学望遠鏡や加速器実験によらない方法で開拓することを目的とする。 ○ 上記の目的を達成するために、高エネルギー宇宙線、ニュートリノ、重力波、観測的宇宙論、及び関連する研究を共同利用・共同研究体制で推進する。 ○ 宇宙線、ニュートリノ、重力波などの観測装置を共同利用研究に供して、日本国内の宇宙線研究拠点を目指す。それと共に宇宙線研究分野の国際的な研究の中心としての役割も担う。
東京大学 物性研究所	物性科学研究拠点	家 泰弘	物性科学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物性科学分野における世界トップレベルの研究を推進するとともに、その設備を用いた共同利用・共同研究の場を全国の研究者に提供することを目的とする。 ○ 物性科学の広範な分野にわたる先鋭的研究を全国の関連研究者と連携しつつ推進する。特に、一般の学部・研究科等では実施の困難な先端的大型設備を用いた共同利用・共同研究を強力に推進する。 ○ 大学法人等の研究機関の枠を超えた共同利用・共同研究拠点として我が国の物性科学コミュニティのハブの役割を果たすと同時に、国際シンポジウムや研究会の主催を通じた研究交流の促進および高度の研究現場における大学院生や若手研究者の人材育成の機能も果たすことにより我が国の物性科学研究を牽引することを目指す。
東京大学 海洋研究所 気候システム研究センター	大気海洋研究拠点	西田 睦 中島 映至	大気海洋科学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 海洋科学および気候システム科学に関する中核的な全国共同利用研究機関としての実績と研究資産を活かして、海洋と大気に関する基礎的研究を推進すると共に、これらを統合した新たな地球表層圏システム研究を推進する。 ○ 陸上研究施設、学術研究船、気候モデルを用いた公募型共同研究制度により国内外の研究者を受け入れ、海洋科学・気候システム科学に関わる先端的共同研究を推進する。 ○ 多様な研究分野が関わる地球表層圏システム研究における学内外の研究者間の知識連携プラットフォームとしての機能を果たし、次世代に通ずる観測手法や数値モデルの開発を行い、これらの研究を通じて将来の地球表層圏システム研究を担う若手研究者を育成する。

大学・研究施設名	共同利用・共同研究拠点名	代表者	研究分野	有効期限	共同利用・共同研究拠点の概要
東京大学 医科学研究所	基礎・応用医学の 推進と先端医療の実 現を目指した医科学 共同研究拠点	清木 元治	基礎・応用 医科学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 感染症、癌、免疫疾患など、多様なヒト疾患を対象とした基礎・応用医学研究を、医科学研究所の知的・人的集積拠点の共同利用化として位置づけ、組織的な展開を図ることにより、医科学研究水準の更なる向上を目的とする。 ○ 共同研究を公募するためのコアとなる領域を研究所内に設定し、広く全国に共同利用・共同研究課題を公募し、共同研究者を受け入れ、盛んな知の交流とイノベーションを生み出す場としての共同研究拠点を創成する。 ○ 医科学研究所の持つ人材と研究基盤を、多様な医科学領域の共同研究の拠点において生かし、広い領域の医科学研究領域における共同研究のハブとしての役割を果たすことを目指す。
東京大学 史料編纂所	日本史史料の研究資 源化に関する研究拠 点	加藤 友康	日本史	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国内外に所在する前近代の日本関係史料について、全国・世界各地の研究者と共同調査・共同研究を行い、日本史史料の全体的・系統的な情報集約とその共有化を進めることを目的とする。 ○ 古代史料・中世史料・近世史料・海外史料・複合史料の5つの領域ごとに課題を設定する特定共同研究と、一般共同研究の2つの方式で研究を推進する。海外史料領域では欧米や東アジアに所在する日本関係史料、複合史料領域においては国内外の文学・美術・宗教関係史料についての調査・研究を行う。 ○ 国内の大規模史料群や海外に所在する日本関係史料について、共同で調査・収集・整理するとともに、目録編成・校訂・翻訳などの共同研究を進めて研究資源としての共同利用化を図る。
東京大学 東洋文化研究所附属 東洋学研究情報セン ター	アジア研究・情報開発 拠点	羽田 正	アジア研究	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ アジア諸地域の過去と現在に関する多様な情報を収集・データベース化し、それらの比較を通じてアジア諸地域についての理解を深め、それをもとに新たな世界観を提案することを目的とする。 ○ アジア各地の多様な言語による原典データベースの作成を進め、各地における近代西洋知導入以前の概念を比較検討する。また、現代アジア諸地域に関する社会情報の収集と関連データベースの拡充を進め、相互の比較を試みる。 ○ データベースの拡充と共同利用化を進め、これらを活用したアジア諸地域比較のための共同研究により、内外のアジア研究のネットワーク化を図る。
東京大学 社会科学研究所附属 社会調査・データアー カイブ研究センター	社会調査・データアー カイブ共同研究拠点	末廣 昭	社会学、経 済学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ データアーカイブの共同利用を推進するために国際標準化事業を推進し、東アジアとの比較可能な新規パネル調査の企画などにより、拠点の国際化と国際連携を目的とする。 ○ SSJ(Social Science Japan)データアーカイブの機能を維持拡充し、提供するデータの質の向上とウェブサイトからの直接ダウンロードによるデータ提供を行い、データベースの国際標準規格であるDDI(Data Documentation Initiative)の導入によりデータアーカイブの国際化を図る。 ○ データアーカイブに寄託されているデータを使った公募型共同研究の拡充と、二次分析に携わる研究者の能力向上のための計量分析セミナーの開催を通じて、二次分析研究の推進と人材育成を図る。 ○ 東アジア(韓国・台湾)と比較可能な新規パネル調査を企画し、社会調査データの創出を図るとともに、東アジアのデータアーカイブ関連機関との協力関係を構築し、研究者との連携を強化する。
東京大学 素粒子物理国際研究 センター	最高エネルギー素粒 子物理学研究拠点	駒宮 幸男	素粒子物理 学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 世界最先端の加速器施設において、我国の素粒子物理学研究者の中心拠点となって国際共同実験を主導・実施し、当該学問の発展に大きく寄与することを目的とする。 ○ 具体的には、欧州原子核研究機構(CERN)の世界最高エネルギーの陽子・陽子衝突型加速器(コライダー)LHCを用いた国際共同実験ATLASを推進し、質量の起源とされるヒッグス粒子の発見や、新たな時空の対称性である超対称性の発見などを旨とする。 ○ また、スイスのポールシェラー研究所(PSI)で国際共同実験MEGを推進し、標準理論では生じないμ粒子の稀崩壊$\mu \rightarrow e\gamma$の発見を目指す。さらに将来計画の検討や関連研究も含めてより広範な研究を行なうことを目指す。

大学・研究施設名	共同利用・共同研究拠点名	代表者	研究分野	有効期限	共同利用・共同研究拠点の概要
東京大学 空間情報科学研究センター	空間情報科学研究拠点	柴崎 亮介	空間情報科学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実世界のさまざまな現象に関する情報は必ずといっていいほど位置や場所と結びつけることができる。位置や場所という観点から情報を収集・整理し、分析・利用する共通技術や理論・手法を研究開発ことで地球温暖化から安心安全までのさまざまな社会的課題の解決に貢献することを目的とする。 ○ 衛星測位をはじめとする測位技術の進展により、人・モノの位置を個別に追跡することが可能になっており、電子地図などとあわせることでさまざまな分析・研究、応用の可能を推進する。 ○ しかし、データを研究開発のために個々の研究者が収集・整理することは大変であることから、当センターは人・モノの移動情報から電子地図・地域統計などさまざまな空間データを整備、提供し、共同研究を通じて、多様な学問分野・技術分野での空間情報の分析・利用技術や手法の開発を支援することを目指す。
東京医科歯科大学 難治疾患研究所	難治疾患共同研究拠点	北嶋 繁孝	医歯学・基礎生物学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 難治疾患の病因・病態形成機構解明と診断・予防・治療法開発の基盤形成に資する共同利用・共同研究拠点構築を目的とする。 ○ 「疾患バイオリソース」、「疾患モデル動物」、「疾患オミックス」の3つの難治疾患研究リソースを活用した公募型の戦略的難治疾患克服共同プロジェクトを推進する。 ○ 国内外の研究者に、上記のリソース群へのアクセスや現有する先端解析支援施設の利用機会の提供を行ない、本邦の難治疾患研究の広範な発展に貢献する。 ○ 難治疾患研究に携わる若手研究者の育成・支援システムを整備する。 ○ シンポジウム等の開催により、難治疾患研究の啓発と最先端情報の発信に努める。
東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所	アジア・アフリカの言語文化に関する国際的研究拠点	栗原 浩英	言語学、文化人類学、地域研究分野	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今日、人類の7割以上が暮らすアジア・アフリカの多様な言語文化のあり方を研究し、中長期的には、21世紀の地球を考えるうえで不可欠な、アジア・アフリカ世界に関する新たな認識枠組を提供するための基盤形成に寄与する一方、当地の多様なあり方をモデルに、未来の多元的世界の発展可能性を追求することを目的とする。 ○ (1)臨地研究(フィールドサイエンス)に基づく国際的研究拠点としての共同研究プロジェクトの実施(2)アジア・アフリカ諸地域の言語・文化等に関する研究資源の収集・分析・編纂及び研究成果の発信(3)研究及び研修・出版・広報等の活動を通じた次世代研究者養成の3領域において共同利用・共同研究を推進する。 ○ 以上の活動を通じ、アジア・アフリカ全体の言語文化を対象とする国際的研究拠点を目指す。
東京工業大学 応用セラミックス研究所	先端無機材料共同研究拠点	岡田 清	材料工学、応用物理学・工学基礎	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学の枠を越えて全国の研究者コミュニティと先端無機材料、建設系材料に関する学理と応用分野の学術研究の発展を先導することを目的とする。 ○ セラミックスを含む先端無機材料と建設系材料とを研究対象分野とし国際研究、一般研究、国際・国内ワークショップ、特定研究を公募し共同利用・共同研究を推進する。 ○ ナノテクノロジー・ナノエレクトロニクス、環境・エネルギー材料、生体医療材料、セラミックバルク材料などの分野の先端無機材料、制震、免震、耐震技術に関連した建設系材料及びシステムに関係した分野、その他、ユビキタス元素協同及び壊れかた機能を制御したセキュアマテリアルなどの分野の研究推進を目指す。
一橋大学 経済研究所	「日本および世界経済の高度実証分析」拠点	西沢 保	経済統計学、経済政策	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 政府統計マイクロデータの利用環境を整備し、データ・アーカイブを拡充して、それに直結した実証研究を進め、あわせて最先端の分析手法・理論の開発によって得られる確かな「知」をもって、精度の高い政策提言を行う。 ○ データ・アーカイブの整備・拡充と統計分析手法の開発を基礎に、日本とアジアを中心とする世界経済の高度実証分析を深め、学界、官庁中央銀行、国際機関との連携融合を進めて、理論と実証の相乗的な研究成果を包括した制度・政策研究を進展させる。 ○ 「アジア長期経済統計」(全12巻の予定)の作成、日本産業生産性データベースの更新等に加えて、物価・資産価格のマイクロデータ、高頻度データを用いた研究を進展させ、物価プロセスの変容、金融政策の運営、金融リスク管理の分析に資する。

大学・研究施設名	共同利用・共同研究拠点名	代表者	研究分野	有効期限	共同利用・共同研究拠点の概要
新潟大学 脳研究所	脳神経病理標本資源 活用の先端的共同研究拠点	高橋 均	神経科学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 脳神経病理標本資源（剖検脳・生検脳など）を活用した分野横断的、学際的な研究を推進することにより、脳神経疾患の病態解明・治療法開発、ひいてはこころの理解に繋がるヒト脳科学を展開することを目的とする。 ○ 脳神経疾患に係わる脳神経病理標本資源のさらなる収集・保存・管理に努め、共同研究拠点としての充実・拡大化を目指す。 ○ 次世代の脳神経病理学を含むヒト脳科学を担う人材育成を行うと共に我が国の脳疾患の克服を目指す。
富山大学 和漢医薬学総合研究所	和漢薬の科学基盤形成拠点	門田 重利	医学・薬学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 膨大な経験知を背景に持つ和漢医薬学について、先端科学の研究手法による科学的エビデンスの集積とその共有化を通して、和漢薬の基礎及び臨床科学基盤を形成し、経験と科学を融合させた新しい医薬学体系の構築と全人的医療の確立に貢献することを目的とする。 ○ 天然薬物資源の確保と保全及び和漢薬の標準化、和漢医薬学の基礎研究の推進及び西洋医薬学との融合、和漢医薬学研究の中核的情報発信拠点の形成を重点課題として共同利用・共同研究を推進する。 ○ 我が国で深刻化している疾患や難治性疾患等に対する画期的新薬の創出や、西洋医薬学との融合による個人の「体質」や「生活習慣」に適した新しい医療体系の構築に寄与することを目指す。
名古屋大学 太陽地球環境研究所	太陽地球環境共同研究拠点	松見 豊	太陽地球系科学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 宇宙科学と地球科学双方にまたがる、太陽から地球までの太陽地球系科学全域をカバーする唯一の先導的中核拠点として、共同利用・共同研究を通して全国の研究者を支援し、世界最先端のレベルで太陽地球環境の構造とダイナミックな変動過程の研究を実施する。 ○ 生命を育む地球と21世紀の人類が活動を展開していく宇宙空間を共に人類の環境と捉え、多様な共同利用（共同研究、研究集会、データベース作成共同利用、計算機共同利用）の提供と太陽地球系科学に関わる国際共同研究計画を先導することにより、「太陽地球系で生起する物理素過程および様々な領域の間の相互作用の理解」、「フレアーや太陽風等、太陽から放出されるエネルギーと物質が太陽地球系の構造と変動に与える影響」を解明するための研究を全国規模で推進する。 ○ 太陽地球系に関わる実社会に役立つ成果の創出（宇宙天気予報等）を行う。
名古屋大学 地球水循環研究センター	地球水循環研究拠点	上田 博	地球水循環	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地球水循環研究拠点は、地球環境システムにおける重要な要素である地球表層の水循環の理解のために世界最先端のレベルで地球水循環システムの研究を行うことを目的とする。 ○ 地球水循環に関する共同研究（計画研究・研究集会）を公募して実施し、国内外の地球水循環関連のプロジェクトと連携して共同研究を推進するとともに、地球水循環研究に必要な観測を推進するための共同利用機器の利用促進を図り、共同研究に供する数値モデルやデータベース等を整備する。 ○ 地球表層の水循環研究を推進する我国唯一の共同利用・共同研究拠点として拠点的役割を果たすとともに、国際的な貢献を果たすことを目指す。
京都大学 化学研究所	化学関連分野の深化・連携を基軸とする 先端・学際研究拠点	時任 宣博	化学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関連分野の研究者コミュニティの意見・要望を踏まえつつ、国内他研究機関等との共同利用・共同研究を一層促進し、それら他機関の連携を担保する国際的ハブ環境の提供も含め、化学分野の基盤的・先端的研究における共同研究体制の構築を目的とする。 ○ 化学分野に関連する研究者コミュニティからの意見・要望を尊重しつつ、「分野選択型（計画研究型）」、「課題提案型」、「連携・融合促進型」、及び「施設・機器利用型」の共同利用・共同研究課題を公募し、採択した共同研究を実施する。 ○ 国外有力研究機関や国内他研究機関との連携を通じて化学分野の先端研究を有機的に展開する環境を整備・提供し、これを活かして連携研究機関における若手研究者の育成にも貢献する。

大学・研究施設名	共同利用・共同研究拠点名	代表者	研究分野	有効期限	共同利用・共同研究拠点の概要
京都大学 人文科学研究所	人文学諸領域の複合的 共同研究国際拠点	水野 直樹	人文学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学問と社会との対話、人文学と情報学の融合による研究成果を創出するとともに、研究者コミュニティの新たな創成を促し、人文学の高度化、国際化に対応し得る技術と人材とを供給することを通じて、人文学のさらなる発展と新たな展望を創出することを目的とする。 ○ 運営委員会での議論と企画に沿って研究計画を策定し、研究課題の公募等による共同研究を推進する。また、共同利用の機能強化と共同研究の支援のため、蓄積してきた文献資料の公開とオンラインの利用を促進する。 ○ 開かれた運営体制のもと、世界的視野から複数文化の生成、変動、相互交渉等を研究し、関連研究者コミュニティに地球社会の調和ある共存に資する学術的知見を提供する。
京都大学 生存圏研究所	生存圏科学の共同利 用・共同研究拠点	川井 秀一	生存圏科学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本研究所は、問題解決型の戦略的研究所として、人類の生存に関わる直近の課題に対し、4つの研究ミッション「①環境計測・地球再生」、「②太陽エネルギー変換・利用」、「③宇宙環境・利用」、「④循環型資源・材料開発」についての先端的共同研究を推進し、分野横断的・学際的な新しい学問領域である生存圏科学に関する基盤の確立及び発展を目的とする。 ○ 学内外の委員から構成される運営委員会を設置し、「設備利用型共同利用・共同研究」、「データベース利用型共同利用・共同研究」、「プロジェクト型共同研究」の3つのタイプの共同利用・共同研究を積極的に行う。 ○ 本研究所が生存圏科学の研究拠点として蓄積してきた研究手法やデータベースを広く関連研究者コミュニティに提供することにより、生存圏科学のさらなる発展を目指す。
京都大学 防災研究所	自然災害に関する総 合防災学の共同利 用・共同研究拠点	岡田 憲夫	社会・安全 システム科 学(自然災 害科学)	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然災害の発生メカニズムの解明とその防災・減災技術の研究開発に関する共同利用・共同研究、総合的な視点に立脚する防災学の確立のための共同利用・共同研究及び国際共同研究を重点的に推進することで、自然科学から人文・社会科学にわたる国内外の研究者との共同研究を通じた我が国の防災学の構築と発展に寄与することを目的とする。 ○ 共同研究の課題を公募し、全国の研究者と連携して、強固に共同研究を推進するとともに、本研究所が有する施設・設備を共同研究に広く供する。また、共同利用・共同研究の進捗状況・成果に関して、研究者コミュニティによる定期的な評価を行う。 ○ 防災に関する共同研究の推進、研究集会の開催、研究ネットワークの構築に努め、防災学研究の中核機関としての役割を果たす。また、突発災害発生時においては、現地情報の収集、調査団の派遣等に指導力を発揮する。
京都大学 基礎物理学研究所	理論物理学研究拠点	江口 徹	理論物理学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本研究所に蓄積された理論物理学研究の実績に基づき、最先端の研究テーマについて共同研究、研究交流を行なうことにより、日本の理論物理学の発展に主導的な役割を果たすことを目的とする。 ○ 全国のコミュニティから研究計画を公募し、学内外の研究者からなる共同利用運営委員会で審査した後、研究計画を実施する。また、世界の第一線の研究者が参加する長期の滞在型プログラムを毎年2～3のテーマを選んで実施し、国際的な共同研究を推進する。 ○ 日本の理論物理学の発展を牽引するとともに、国際的にも有数の研究センターの一つとして世界の研究者コミュニティの活動に貢献する。

大学・研究施設名	共同利用・共同研究拠点名	代表者	研究分野	有効期限	共同利用・共同研究拠点の概要
京都大学 ウイルス研究所	ウイルス感染症・生命科学先端融合的共同研究拠点	影山 龍一郎	ウイルス学、実験病理学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ ウイルス感染症に対処するために生命科学に裏付けられた遺伝子から細胞・個体レベルに至る先端融合的研究を推進することが強く求められている。本研究所で築き上げられてきたウイルス生命科学の技術・知識・設備を基に、多様な共同研究を推進することで我が国のウイルス研究の飛躍的な発展に寄与することを目的とする。 ○ 学内・学外委員によって構成される運営委員会のもと、「①霊長類P3感染実験」、「②マウスP3感染実験」、「③遺伝子・細胞レベルのウイルス・生命科学」の3テーマについて、研究課題を全国公募し研究者コミュニティの要望を踏まえ共同利用・共同研究を実施する。 ○ 本研究所は、設立されて以来、大規模なサルおよびマウスのP3感染実験施設を設置して、個体レベルの感染実験に取り組んできた。このような本研究所が蓄積してきた研究手法や感染実験施設を広く研究者コミュニティに提供する。
京都大学 経済研究所	先端経済理論の国際的共同研究拠点	西村 和雄	理論経済学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国際性と学際性に基づいて、経済理論、とりわけ複雑系経済学及び経済戦略の2つの研究領域を中心に、公募型の共同研究をさらに進め、国際的に開かれた先端的な経済理論研究の場を提供することで、我が国の理論経済学のさらなる発展を目的とする。 ○ 学内外の委員で構成される共同利用・共同研究運営委員会のもと、研究者コミュニティからの要望を広く反映して、先端的な経済学研究に係わる公募型の共同研究を実施し、経済学研究に係わる資源の共同利用を推進する。 ○ 公募型の共同研究等を通じて、国内の多くの研究者に、国際的な研究ネットワークや共同研究プロジェクトへ参画する機会を提供する。
京都大学 数理解析研究所	数学・数理科学の先端的共同利用・共同研究拠点	藤重 悟	数学、数理科学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本研究所に蓄積されてきた数学・数理科学研究の実績を基に、最先端の研究テーマについて共同研究、研究交流を行うことにより、我が国の数学・数理科学の飛躍的な発展を目的とする。 ○ 全国の研究者からなる運営委員会を通じ、数学・数理科学の研究者コミュニティの意見を反映させながら、公募による「RIMS共同研究」、「RIMS研究集会」、「RIMS合宿型セミナー」を開催する。また、年間を通じた計画として「基礎研究型」と「分野融合型」の2つのRIMSプロジェクト研究を組織し、国内外の研究者による国際共同研究を行う。(注：RIMSは“Research Institute for Mathematical Sciences”の略) ○ 関連研究者との共同研究を通じて、この分野における国際研究拠点として、研究成果を発信し、我が国の数学・数理科学の発展に主導的な役割を果たす。
京都大学 原子炉実験所	複合原子力科学拠点	森山 裕丈	複合原子力科学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究用原子炉等の施設を共同利用・共同研究に供するとともに、核エネルギー利用と放射線利用の両面から基礎的・萌芽的な実験的研究を行うことで、複合原子力科学の先導的な応用分野の開拓を目的とする。 ○ 学内外の委員から構成される拠点運営委員会のもと、広く関連研究者の要望を反映した公募型共同利用・共同研究を実施する。具体的には原子力基礎科学、粒子線物質科学、及び放射線生命医科学分野の研究を推進し、複合原子力科学の実験的研究を行う拠点を形成する。 ○ 総合的・学際的な原子力の基盤の確立と革新的で安全な原子力システムの創成、並びに中性子をはじめとする放射線の新たな応用分野の開拓をしていく上で、国内のみに止まらず、特にアジアにおける国際的な実験研究の拠点としての役割を果たす。
京都大学 霊長類研究所	霊長類学総合研究拠点	松沢 哲郎	自然人類学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本研究所に蓄積されてきた霊長類に関する総合的研究の実績を基に、国内のみならず国際的な共同研究を進めることにより、我が国の霊長類学のさらなる発展を目的とする。 ○ 学内外の委員から構成される運営委員会のもと、ヒトを含む霊長類を様々な分野・観点から研究する国内・国外の霊長類学者の要望を反映した公募型共同利用・共同研究を実施するとともに、霊長類の観測拠点や所内飼育個体の提供を行うことで、研究者ネットワークの国際的・学際的拠点を形成する。 ○ 全国各地の大学、研究所、研究施設などの霊長類を対象とする研究者の受け皿となり、霊長類に関する様々な研究の推進拠点としての役割を果たす。

大学・研究施設名	共同利用・共同研究拠点名	代表者	研究分野	有効期限	共同利用・共同研究拠点の概要
京都大学 東南アジア研究所	東南アジア研究の国際共同研究拠点	水野 広祐	地域研究	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 東南アジアを対象にした地域研究の飛躍的な発展を望む国内外の研究者コミュニティの要望に応えるべく、本研究所に集約されてきた研究成果、人材ネットワーク等を活用して、先進的な文理融合型の共同研究を推進し、地球共生パラダイムの構築を目指す東南アジア研究の発展を目的とする。 ○ 学内外及び外国人研究者によって構成される共同利用・共同研究拠点運営委員会のもと、主に「①人的ネットワークを活用した拠点集中型」、「②フィールド滞在型」、「③資料共有型」の3つの公募型国際共同研究を実施するとともに、本研究所が蓄積してきた研究資源（図書、地図、画像等）および出版媒体（パンフレット、季刊学術誌、電子ジャーナル等）や施設（バンコク、ジャカルタ連絡事務所を含む。）の共同利用を促進する。 ○ 東南アジア研究に携わる国際的な研究者コミュニティの要望に応える共同研究の場と機会を提供するとともに、フィールドに立脚した文理融合型の総合的な東南アジア研究の発展を先導する。
京都大学 放射線生物研究センター	放射線生物学の研究推進拠点	松本 智裕	放射線生物学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本センターに蓄積されてきた放射線生物学の実績を基に、全国の関連研究者との共同研究、共同利用活動を通じて、我が国の放射線生物学のさらなる発展を目的とする。 ○ 学内外の委員から構成される運営委員会のもと、放射線生物学の先端研究や研究技術開発の推進のために当施設研究者との共同研究を行うとともに、全国の放射線生物研究者への各種放射線線源の利用や放射線生物研究の解析装置・設備の提供、放射線感受性細胞などの研究資材や放射線生物学の実験技術の供与などによる共同利用活動を行う。 ○ 全国各地で活躍する研究者との共同研究の推進および共同利用活動により、我が国の放射線生物学研究者の関連研究者コミュニティの研究拠点としての役割を担う。
京都大学 生態学研究センター	生態学・生物多様性科学の先端的共同利用・共同研究拠点	榎 宜高	生態、環境	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生態学は個体から生態系までのマクロレベルの生命現象を対象とする研究だけでなく、近年は、地球環境問題の視点から人間活動と生物多様性との関わりを総合的に研究する、生物多様性科学への貢献が大きく期待されている。これらの研究者コミュニティの要望に応えるべく本研究センターに集約された知識・技術・設備をもとに多様な共同研究を推進することを目的とする。 ○ 学内外の研究者によって構成される運営委員会のもと、研究者コミュニティからの要望を広く反映して、共同利用・共同研究の拠点活動を推進する。また、生態学・生物多様性科学に係わる研究課題を立案し、広く国内の関連研究者に向けて共同利用・共同研究を募集し、実施する。 ○ 野外研究・実験研究・理論研究の統合による生態学的現象の解明とそれに基づく生態系の持続的管理に関する共同研究を行うとともに、多様な研究者の成果や情報を集積し、統合する拠点として役割を担う。
京都大学 地域研究統合情報センター	地域情報資源の共有化と相関型地域研究の推進拠点	田中 耕司	地域研究	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域研究に関する情報資源を統合し、相関型地域研究を行うとともに全国の大学その他の研究機関の研究者と共同研究を行う。具体的には①地域横断的な相関型地域研究の推進、②地域に関する情報資源の共有化システムの開発、③情報学を応用した地域情報学の構築、を実施することを目的とする。 ○ 上記の3つのミッションに沿った研究推進の枠組みを設定しつつ、学内外の委員からなる運営委員会さらに全国の地域研究に関連する教育研究組織が加盟する地域研究コンソーシアムなど、研究者コミュニティの要望を広く反映させる体制のもと、研究課題を公募し共同研究を実施する。 ○ 研究者コミュニティの要望に応える共同研究の機会と場を提供するとともに、地域研究に要請されている社会連携研究の一層の推進、地域研究に関する情報提供を行う。

大学・研究施設名	共同利用・共同研究拠点名	代表者	研究分野	有効期限	共同利用・共同研究拠点の概要
京都大学 再生医科学研究所	再生医学・再生医療の先端融合的共同研究拠点	坂口 志文	再生医学・再生医療	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 再生医学・再生医療の着実な発展を望む研究者コミュニティの要望に応えるべく、本研究所に集約された再生医学の知識・技術を基に、多様な先端的共同研究を推進するとともに、再生医学研究・再生医療を積極的、意欲的に担う研究者を教育・育成することを目的とする。 ○ 学内、学外委員によって構成される運営委員会のもと、研究者コミュニティからの要望を広く反映して、再生医学・再生医療に係わる共同研究、特に、公募課題による公募型共同研究を実施する。 ○ 多様な先端的・学際的共同研究の推進と研究者の教育・育成を求める研究者コミュニティの要望に応える共同研究の場と機会を提供するとともに、再生医学研究に係わる研究資源、技術の共同利用、分配、標準化を推進する。
大阪大学 接合科学研究所	接合科学共同利用・共同研究拠点	中田 一博	材料加工・処理	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 接合全般に関する研究を通じて、人類社会のニーズに応える接合科学の発展と学問構築を図る。 ○ 基盤である加工プロセス、接合機構、評価の3研究領域と接合を中心とする先進プロセス科学に関する研究を両輪として押し進めると共に当研究所が有する溶接・接合に関する設備、知識等を共同研究員に供することにより国内外の研究者コミュニティに開かれた接合科学に関する我が国唯一の拠点としての役割を果たす。 ○ 産業界との多様な連携を行い産学連携の中核的拠点となること、また各国の関連機関との学術交流等を通じて、接合科学における世界のCOEとしての役割を果たすことを目指す。
大阪大学 蛋白質研究所	蛋白質研究共同利用・共同研究拠点	相本 三郎	生物分子科学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な機能・構造・物性をもつ蛋白質の基礎的、応用的研究を共同実施する拠点を形成し、我が国の生命科学の飛躍的発展に貢献することを目的とする。 ○ 特殊機器あるいは大型機器（SPRing-8 生体超分子構造解析ビームライン、溶液・固体NMR装置等）を共同利用に資するとともに、多くの分野から共同研究員を受け入れて蛋白質に関する研究を推進する。また蛋白質研究所セミナーを通じて研究交流や情報発信の場となる事業を展開する。 ○ 蛋白質研究を推進する中核として、時代を先導する蛋白質研究の基盤的技術や方法論の開発を目指すとともに、時代の要請する課題に取り組む。また、次世代の生命科学研究を切り開く人材を育成する。
大阪大学 微生物病研究所	微生物病共同研究拠点	菊谷 仁	感染症学・生体応答医学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 微生物病に関する研究の発展と新興・再興感染症に対する迅速な取り組みを望む研究者コミュニティの要望に応えるべく、本研究所に集約・設置された知識・技術、研究施設を基に、多様な先端的共同研究を推進するとともに、本領域を積極的、意欲的に担う研究者を教育・育成する。 ○ 1) 公募による学外研究者との共同研究、2) 研究者コミュニティへの研究資源の分配、3) 感染症学・生体応答医学に関する情報発信、教育・啓発活動、を実施する。 ○ 公募共同研究を通じて異分野交流を活性化し、共同研究を支援する中から斬新な発想のできる若手研究者の育成に努める。
大阪大学 社会経済研究所	行動経済学研究拠点	小野 善康	行動経済学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 狭義の合理性をもとにした伝統的な経済学では解決できなかった不況・格差・中毒などの経済問題に関する研究の発展を目的とする。 ○ 時間割引率プロジェクト、公共財の供給行動プロジェクト、利他性プロジェクト、競争選好プロジェクト及び流動性選好プロジェクトなどの共同研究を推進する。 ○ 行動経済学的手法を用いた研究により、新たな知見の創出、課題の発見、共同研究への若手研究者の参加の促進等を行うことで、経済学分野全体の発展に寄与し、政策提言につなげることを目指す。

大学・研究施設名	共同利用・共同研究拠点名	代表者	研究分野	有効期限	共同利用・共同研究拠点の概要
大阪大学 核物理研究センター	サブアトム科学 研究拠点	岸本 忠史	素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本センターを中心に、理学研究科の原子核実験施設と協力して、原子核物理学を中心に関連分野に跨る大型装置を中心とする最先端研究を推進する研究拠点、研究体制を形成する。 ○ 原子核構造や反応研究に加え、宇宙の物質創成や星中元素合成の謎に関わる基礎的研究分野、理学から医学工学への応用など、幅広い分野で最先端研究を推進する。 ○ 特色あるリングサイクロトロン施設とレーザー電子光施設（LEPS施設）を運転し、原子核物理学研究者の基盤的研究の発展を図り、関連分野の研究者の要望に応える。 ○ 中大型装置を持つ他研究機関と連携し、人材と装置を有機的かつ効率的に活用できる研究環境を作る。本拠点並びに日本の研究レベルを最高に保つ。
大阪大学 レーザーエネルギー学 研究センター	レーザーエネルギー学 先端研究拠点	疇地 宏	プラズマ科学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 世界最大級の高出力レーザー装置並びに関連施設を国内外の研究者の共同利用に供することによって、レーザーエネルギー学の基礎と応用に関する研究・教育を推進することを目的とする。 ○ これまで培われた高出力レーザー技術を基盤に、常に先進的な研究環境を提供し、高出力レーザー科学並びに高エネルギー密度科学コミュニティの国内唯一、国際的にもユニークな実験、研究拠点として、優れた研究者の叡智を結集させて、当該分野の学術基盤の充実を図るとともに、エネルギー開発を含む広い産業応用並びに医療応用が期待される当該研究領域の研究を戦略的、学際的に推進する。
鳥取大学 乾燥地研究センター	乾燥地科学拠点	恒川 篤史	乾燥地科学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 乾燥地における砂漠化や干ばつなどの諸問題に対処し、乾燥地における自然-社会系の持続性の維持・向上に資する研究を中核的研究教育拠点として推進し、乾燥地科学分野の研究者の利用に供することを目的とする。 ○ 国内外の研究者との共同研究を推進するとともに、センター設置の研究施設・設備の共同利用を支援する。また、若手研究者の人材育成等を行い、国際的学術ネットワークの形成と研究者交流を促進する。 ○ 国内外との共同研究で蓄積された成果等をデータベース化し、乾燥地科学分野に関する学術研究の発展に寄与する。
岡山大学 資源生物科学研究所	植物遺伝資源・ストレス 科学研究拠点	村田 稔	植物遺伝資源学、植物環境応答学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地球環境の著しい悪化、作物のバイオ燃料への転化、及び世界的な人口の爆発的増加は、今日深刻な食糧不足を惹起しつつある。本拠点では、国内外研究者との共同研究の推進により、「様々な環境ストレス下での食糧生産を可能にするため、資源植物の環境適応性の解明とその応用、及び関連分野の人材育成」を目的とする。 ○ 本研究所が保有するリソース（大麦および野生植物系統、及び大麦ゲノム情報）を共同利用し、環境適応性に係る遺伝子の解析と、ストレス耐性植物の開発等に関する共同研究を行う。 ○ 世界の叡智を結集することにより、植物ストレス科学研究を飛躍的に推進し、劣悪環境下での作物栽培を可能とする。
岡山大学 地球物質科学研究センター	地球・惑星物質科学研究 研究拠点	中村 栄三	地球惑星物質科学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本拠点の研究設備を用いた共同利用研究の機会を提供し、地球・惑星の起源、進化及びダイナミクスに関し、最先端の地球化学分析、構造解析、年代測定等を駆使した物質科学に基づき、定量的かつ実証的研究を実施し、地球惑星物質科学の発展に努めることを目的とする。 ○ 世界最高レベルの基盤研究能力に基づく共同研究の展開、当該分野を先導できる優秀な科学者の育成教育プログラムの提供、連携研究に基づく新たな研究領域の開拓、及び、地球惑星科学に関する研究試料とそのデータを軸にした学問の体系化・継承により、研究者が集まる「場」を提供する。このことにより、地球惑星物質科学の総合的発展を先導する国際研究教育拠点を構築する。

大学・研究施設名	共同利用・共同研究拠点名	代表者	研究分野	有効期限	共同利用・共同研究拠点の概要
広島大学 原爆放射線医科学研究 所	放射線影響・医科学 研究拠点	神谷 研二	放射線影 響・医科学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 世界的に高い評価を得ている、原爆やその他の放射線による障害の基礎的及び臨床的研究に関する実績を基盤として、蓄積した学術資料や技術及び研究機器を公開し、共同利用・共同研究拠点として機能することで、我が国の放射線影響・医科学研究を強力に推進する。 ○ ゲノム損傷修復・細胞応答研究等の基礎研究から原爆被爆者のがん等の放射線障害の機構やその治療の研究、緊急被ばく医療に関する再生医学的研究と実践的研究、さらには低線量放射線の人体影響に関する研究などの学際的共同研究を推進する。 ○ 国際シンポジウム等の開催や放射線関連機関とも連携すると共に、国内外の人材育成を進め、国際研究教育拠点としての役割を果たす。
広島大学 放射光科学研究セン ター	放射光物質物理学研 究拠点	谷口雅樹	物質科学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 真空紫外線から軟X線域の放射光を利用し、固体物理学を中心とする物質科学研究分野の独創的・先端的学術研究を推進する。 ○ 研究者コミュニティの意見・要望を十分に踏まえ、世界最高性能の光電子分光技術を用いた新奇超伝導、金属-非金属移動、価数揺動等の固体物理学における重要な諸課題の解明及び「放射光ナノサイエンス研究システム」を用いたナノ構造特有の電氣的・磁氣的・光学的性質の解明、スピン電子構造の完全決定を実現するスピン分解逆光電子分光装置の開発等々の研究課題を重点的に推進する。 ○ 共同利用・共同研究への参加による学生・院生等の次世代の若手研究者を育成する。
徳島大学 疾患酵素学研究セン ター	酵素学研究拠点	木戸 博	病態医科学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 我が国唯一の酵素学の研究施設として、基礎医学研究者コミュニティと広範な医学応用を望む研究者コミュニティとが、酵素学を共通のキーワードとして、生命科学と医学応用の領域で共同利用・共同研究することで、社会的要請に応えることを目的とする。 ○ 拠点では、1)ゲノム情報に対応した網羅的酵素・蛋白質の機能解析(プロテオミクス解析)と情報の統合(メタボローム解析)、2)病態解明と創薬に向けた応用研究を推進し、3)酵素・蛋白質の機能解析の解析方法、ノウハウ等の情報提供を行う。 ○ 世界屈指のプロテオミクス解析装置を用いた共同研究の実施、酵素・蛋白質の構造解析に基づく創薬新理論の開発、酵素学の知識と技術の提供を通じて研究者の基礎的研究能力を充実させ、医学応用研究の発展に貢献することを目指す。
高知大学 海洋コア総合研究セ ンター	地球掘削科学共同利 用・共同研究拠点	渡邊 巖	地球惑星科 学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地球掘削科学の発展を望む研究者コミュニティの要望に応えるべく、世界有数の大型冷蔵コア保管庫をはじめ、地球掘削科学に特化した多くの高精度分析機器群(質量分析計・X線分析装置・超伝導磁力計等)など、本センターの卓越した設備・機能を活用した共同利用・共同研究を行い、我が国主導の地球掘削科学やその関連分野の拠点化・推進を図る。 ○ 国内外の研究者コミュニティのニーズに応える活動の強化・充実に図り、日・米・欧の大型プロジェクトである「統合国際深海掘削計画(IODP)」を推進する。 ○ 研究交流や国際シンポジウム等の開催、若手研究者の育成のためのスクール開催によって、国内はもちろん国外、特にアジア地域の研究者コミュニティとの連携や研究ネットワークの構築を図る。
九州大学 応用力学研究所	応用力学共同研究拠 点	柳 哲雄	応用力学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 力学の学理を応用した応用力学の研究手法を用いて、エネルギー問題や環境問題など社会・学界の要請する研究課題に適切な答をだすような研究成果を得ることを目的とする。 ○ 応用力学分野として、特に、核融合力学・地球環境力学・新エネルギー力学分野の国際共同利用・共同研究、全国共同利用・共同研究を、国内外の大学・国立研究所・民間研究所の研究者との緊密な研究体制を構築して推進する。 ○ 現在の社会で問題となっている、また近未来の社会で問題化するであろう、エネルギー問題(核融合・風・太陽光)や地球環境問題・地域環境問題の解決に直結するような新たなプロジェクト研究を創設し、学術研究の発展に寄与することを目指す。

大学・研究施設名	共同利用・共同研究拠点名	代表者	研究分野	有効期限	共同利用・共同研究拠点の概要
九州大学 生体防御医学研究所	多階層生体防御システム研究拠点	吉開 泰信	基礎医学、 生物科学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ ゲノムから個体レベルまでの多階層の技術と情報を共同研究者に提供することによって、生体防御領域の学術研究の発展に寄与する。 ○ ゲノム、プロテオミクス、構造生物学、発生工学の新規技術開発のための共同利用・共同研究を推進し、得られた多階層情報を明確に体系化して提供することによって、生体防御システムとその破綻による疾患メカニズムの解明、さらに生体防御再構築による新規治療法の開発のための共同研究を推進する。 ○ 多階層レベルの新規技術開発の共同研究と技術指導を行い、相互にインタラクティブな研究環境を提供することによって、生体防御システムを統合的に把握できる研究者を育成し、その学術研究を支援する。
佐賀大学 海洋エネルギー研究センター	海洋エネルギー創成と応用の先導的共同研究拠点	門出 政則	熱工学、エネルギー学、船舶海洋工学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 海洋エネルギー分野での国際的な先導的中核研究拠点として、海洋の有する膨大な種々のエネルギー及びエネルギー物質の回収とその複合的高度利用に関する基礎的応用的及び実証的な研究を推進する。 ○ 海洋に賦存する膨大な種々のエネルギー及びエネルギー物質の回収とその複合的高度利用法、海洋エネルギー利用に関連する海洋環境への影響の解明などに関して、基礎と応用、更には実証を目指した研究を推進する。 ○ 我が国及び国際的な海洋エネルギーの中核的拠点として、海洋エネルギーの有効利用を図り、世界的なエネルギー・環境問題の解決に貢献し、海洋エネルギー分野での先導的役割を担うことを目指す。
長崎大学 熱帯医学研究所	熱帯医学研究拠点	平山 謙二	熱帯医学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 熱帯医学におけるこれまでの国際的な活動実績とアジア・アフリカ感染症研究施設などの研究基盤を背景として、国内の多様な領域の研究者とともに、感染症の流行する現場に根ざした共同研究を企画し遂行する。さらに地球規模で流行する感染症に関する研究に資する情報やサンプルのリソースセンターとして、研究会の開催や研究支援サービスを行う。 ○ 上記の活動により、感染症制御に資する知と技を創造する研究者コミュニティの維持活性化を拠点の目的とする。 ○ 全国の小規模研究者グループの優れた研究者が集まり、拠点で開催する国際的な研究会などを利用してながら公募研究プロジェクトを企画し熱帯地域での臨床・疫学公衆衛生学研究を遂行できるよう推進する。
熊本大学 発生医学研究所	発生医学の共同研究拠点	小椋 光	発生医学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発生学の視点から生命現象とヒト疾患の解明を目指す国際レベルの共同研究を賦活化することで、我が国における発生医学分野の研究基盤を確立し発展させることを目的とする。 ○ 発生医学の先端的研究、恒常的視野に立った人材育成、国内外の連携ネットワークの活用により、発生医学の共同利用・共同研究を推進する。 ○ 胚形成から個体形成に至る様々な発生過程の仕組みを分子、細胞、組織、器官、個体へと連続する観点から解明することで、様々な発生異常やヒト疾患の病因を明らかにし、診断法や予防法の確立を目指す。さらに、再生医療等の安全で有効な治療法の確立を実現する発生医学分野の我が国における共同研究の中核となることを目指す。
琉球大学 熱帯生物圏研究センター	熱帯生物圏における先端的環境生命科学共同研究拠点	屋 宏典	環境生命科学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 琉球列島の生物群集の様々な生命現象について、分子生物学的なレベルに掘下げた共同研究を展開しつつ、関連分野の研究者が独創性を伸ばすための研究環境を提供する。 ○ サンゴ礁、マングローブ林、亜熱帯原生林等の野外フィールドや各種機器、実験圃場、大型飼育水槽実験施設を用いて各種の公募共同利用事業を行うとともに、関連分野におけるプロジェクト研究を組織し、推進する。 ○ 熱帯・亜熱帯における生命現象を解明することにより生態系の保全・再生策の構築、そして熱帯感染症の制御に関わる学術研究の発展に貢献する。

大学・研究施設名	共同利用・共同研究拠点名	代表者	研究分野	有効期限	共同利用・共同研究拠点の概要
東京理科大学 総合研究機構火災科学研究センター	火災安全科学研究拠点	菅原 進一	建築学、建築防火	H21.7.1 ～ H26.3.31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 都市化に伴う新空間（超高層、地下）および工業化・省エネルギー化に伴う新材料（主にアルミ、プラスチック等）の利用に伴って増大する火災の潜在リスクの抑制に資することを目的とする。 ○ 本格的でかつ大学機関唯一の実大実験施設を共同利用することで、国内外の火災科学に関係する知を結集することができ、技術研究の進展を推進する。 ○ 多分野横断型の火災科学“理論”と大型実験施設による“実践”的対応を中心とした研究が実施されることで、火災被害損失の低減に大きく寄与することを目指す。
早稲田大学 坪内博士記念演劇博物館	演劇映像学連携研究拠点	竹本幹夫	芸術学・芸術史・芸術一般	H21.7.1 ～ H26.3.31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 世界の演劇研究者・機関との演劇や映像をテーマとする共同研究の活性化を目指す。 ○ 本施設がこれまで収集した膨大な研究資源の有効利用と成果の社会還元を図る。 ○ 学術データベースや研究スペースを共同研究者の利用に開放する等、研究支援体制を充実する。 ○ ①他分野との協同による演劇映像文化環境の歴史的・社会学的研究、②自然科学との連携による演劇・映像テクノロジーの研究、③演劇・映像制作の現場との連携研究、④あらゆる言語芸術を一貫する普遍的なテキスト研究、これら4つの研究方向のもと、開放的で互恵的な研究交流を実現する。
神奈川大学 日本常民文化研究所	国際常民文化研究拠点	佐野 賢治	文化人類学・民俗学分野	H21.7.1 ～ H26.3.31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国家や民族を超え、等身大の生活文化、常民文化の学際的・国際的な共同研究を推進し、多文化共生社会における異文化理解に資することを志向する。 ○ これまでの研究実績を踏まえ、所蔵する史資料・データベースを広く研究者コミュニティに公開・共有化し、さらに研究分野の拡大、深化を図る。 ○ ①海域・海洋史の総合的研究、②民具資料の文化資源化、③非文字資料（画像・身体技法・景観）の体系化、④映像資料の文化資源化、⑤常民文化資料共有化システムの開発、の五つの研究プロジェクトを設定し、我が国の国公私立大学をはじめ内外の研究機関と連携協力しその要としての役割を果たす。

【ネットワーク型】（○のついた研究施設は、各ネットワーク型拠点の中核機関）

大学・研究施設名	共同利用・共同研究拠点名	代表者	研究分野	有効期限	共同利用・共同研究拠点の概要
筑波大学 ○ 下田臨海実験センター	海洋生物学研究共同推進拠点	稲葉 一男	海洋生物学	H22.4.1 ～ H28.3.31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生命科学・生物多様性・環境の基盤である海洋生物学分野の共同利用・共同研究を推進し、先端的・分野横断型研究の創出並びに国際連携の促進を図る。 ○ 海洋生物学分野における重点研究、新たなリード研究につながる次世代型研究、研究成果の普及、国際連携事業に関し、公募型の共同研究を実施し、当該分野の全国レベルでの研究推進と強力な研究連携体制を構築する。 ○ 研究施設・リソース・研究者交流の場の提供により、海洋生物学の共同研究ネットワーク形成の拠点として機能するとともに、グローバルネットワークにおける日本の窓口拠点としての役割を果たす。
東京大学 海洋基礎生物学研究推進センター					

大学・研究施設名	共同利用・共同研究拠点名	代表者	研究分野	有効期限	共同利用・共同研究拠点の概要
北海道大学 情報基盤センター	学際大規模情報基盤 共同利用・共同研究 拠点	米澤 明憲	計算科学, 計算機科学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ ネットワーク型拠点の有する超大規模計算機と大容量情報基盤を用いて、これまで解決が困難とされてきたグランドチャレンジ的な研究領域において、学際的な共同利用・共同研究を実施することにより、我が国の学術・研究基盤の更なる高度化と恒常的な発展に資することを目的とする。 ○ (1) 超大規模数値計算系応用分野, (2) 超大規模データ処理系応用分野, (3) 超大容量ネットワーク技術分野, (4) 構成拠点の特色を強く反映する研究分野、の各分野に対して、共同研究の公募課題の設定実施課題の採択を実施し、課題応募者と8大学の教員・研究者との緊密な連携のもとに本ネットワーク型拠点の有する計算・情報処理資源を集中的に連携した学際的な研究を実施する。
東北大 サイバーサイエンスセンター					
○ 東京大学 情報基盤センター					
東京工業大学 学術国際情報センター					
名古屋大学 情報基盤センター					
京都大学 学術情報メディアセンター					
大阪大学 サイバーメディアセンター					
九州大学 情報基盤研究開発センター					
北海道大学 電子科学研究所	物質・デバイス領域共 同研究拠点	山口 明人	物質・デバ イス科学	H22. 4. 1 ～ H28. 3. 31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安心安全で質の高い生活ができ持続可能な社会の実現に向けた「情報、環境、エネルギー、医療」社会システムの構築は大きな課題となっている。その課題解決に必要不可欠な物質創製からデバイス開発に至る基盤科学技術を格段に発展させるために、社会及び研究者コミュニティの要望に応じて、「物質・デバイス領域」の共同研究を促進する開かれたネットワーク型拠点を形成し、相乗・相補の効果を発揮し物質・デバイス領域で多様な先端的・学際的共同研究を推進する。 ○ 5つの研究所は、物質・デバイス領域では国際的にも高い評価がある。また、平成18年度より特別教育研究経費による附置研究所間連携事業を展開し、ネットワーク型連携共同研究に十分な実績がある。拠点では、物質創製開発、物質組織化学、ナノシステム科学、ナノサイエンス・デバイス、物質機能化学の研究領域を横断する「物質・デバイス領域」の公募による共同研究システムを整備して学際的連携共同研究を推進し、革新的物質・デバイスを創出することで、将来の豊かな人類社会の構築に絶大な貢献を果たす。
東北大 多元物質科学研究所					
東京工業大学 資源化学研究所					
○ 大阪大学 産業科学研究所					
九州大学 先導物質化学研究所					